



「高血圧 サイレントキラーの正体」

4月7日はWHOの設立記念日で、その年に世界的に優先的に取り組むべき健康課題が世界保健デーのテーマとして発表されます。Silent killer, global public health crisisとして2013年世界保健デーのテーマとなった高血圧は、高齢化社会の先頭集団にありながら世界に倍する塩分摂取量の私たち日本人にも、最も身近で切実な健康課題です。自覚症状がないこともあり、放置されたり、治療の中断例も少なくありません。今回、高血圧の生活習慣病に対するリスク要因としての意味を再認識する目的で、平成26年2月13日に大阪国際交流センターに於いて日本WHO協会フォーラム「高血圧サイレントキラーの正体」を開催致しました。企業・健保組合・行政で健康啓発活動を担当しておられる方々を中心に100名余の皆様に参加いただきました。

まず開会の挨拶にかえて日本WHO協会の関淳一理事長が「世界保健デーテーマの意義」について話し、つづいて滋賀医科大学教授の三浦克之先生に「国際共同研究からわかった血圧を上げる生活習慣」、また大阪市立大学教授の由田克士先生に「高血圧の予防と治療のための食生活改善戦略」と題して、各々ご講演いただきました。講演の後、パネルディスカッション形式で参加者から活発な質問やご意見をうかがうことができました。

開会の挨拶に替えて

「世界保健デーテーマの意義」

公益社団法人 日本 WHO 協会 理事長
関 淳 一



マーガレット・チャンWHO事務局長は、2013年4月7日の世界保健デーのスピーチの中で、2013年のテーマとして「高血圧」を選択した理由、背景等について以下のように述べています。

「世界中で、私たちの生活環境は急速に変化している。人々の健康は、特に次の三つの要素により影響を受けている。①人口の高齢化②急速な都市化③非健康的なライフスタイルのグローバル

化であり、特にライフスタイルの変化としてファスト・フードの利用などによる食事の変化や車の利用増加による運動不足などがある。世界中が一見豊かになったように見えるが、実は共通の健康課題に直面していると言える。それは世界の死亡原因として、心筋梗塞、脳卒中、癌などのいわゆるNCDsが上位を占める様になり感染症を凌駕した事実をあげることができる。特に、その中で、心・血管病変については、そのリスク要因の最たるものが高血圧である。現在、高血圧の人は10億人と推定されている。しかし、ここで大事なことは、高血圧がいつまでもリスク要因の上位にあってはならない点である。なぜなら、高血圧は予防・治療が可能であるからである。一方、見逃されたり、治療されずに放置されると、冠動脈のバイパス手術や、透析などが必要となる。早く対応することにより、膨大な医療費の削減にもなる。」

今日は、マーガレット・チャンのスピーチの趣旨も踏まえて、「高血圧サイレントキラーの正体」と題したフォーラムを開催致しました。講師のお二人の先生は、各々の分野で現役として第一線で活躍中の方々です。今日のテーマにふさわしい興味あるお話をお聞きできると思います。